

国内上場株式インパクト投資の課題と対応



国内上場株式インパクト投資ファンドの課題認識

フェーズ	課題認識		対応など
	大分類	小分類	
ファンド組成時	未上場と上場の違い	株主数・経営者との関係性	企業とのインテンションの共有
	投資対象とする企業群	企業規模の考え方と範囲	投資対象を全上場企業へ拡充
	共通理解の醸成	国際的な原則・フレームワーク	IMP、IRIS+、SASB、SDGsの活用
ファンド運用以降	インパクト投資の「自分ごと化」	情報発信・事例共有	インパクトレポートの発行
	未上場と上場のシームレス化	企業価値評価のギャップ有無 インベスターコントリビューション	未上場株式インパクト投資家と意見交換
高度化に向けて	システムレベルへの貢献	上場株式を通じた システムチェンジ投資の研究	SIIF（社会変化推進財団）と システムチェンジ投資の研究開始
	複雑に絡み合う環境・社会課題	トレードオフ・シナジーの関係	早稲田大学 伊坪研究室とライフサイクル アセスメント（LCA）共同研究開始

国内株式インパクト投資ファンド（要旨）

特徴

- ポイント 1 インパクト投資を通じて「安心・豊かな社会」の実現を目指す
- ポイント 2 事業活動を通じた社会課題の解決に取り組む企業を厳選、長期的にバイ・アンド・ホールド
- ポイント 3 インパクト創出状況をモニタリング、年次レポートで報告

運用哲学

事業活動を通じて社会課題の解決を目指す企業へ長期投資することで、社会の持続性を高めるインパクトの創出と長期的なリターンを獲得できる

理由①

社会課題の解決に対して明確な意図を有し、強みやイノベーションを活用した競争優位性のある事業活動は持続性が高い

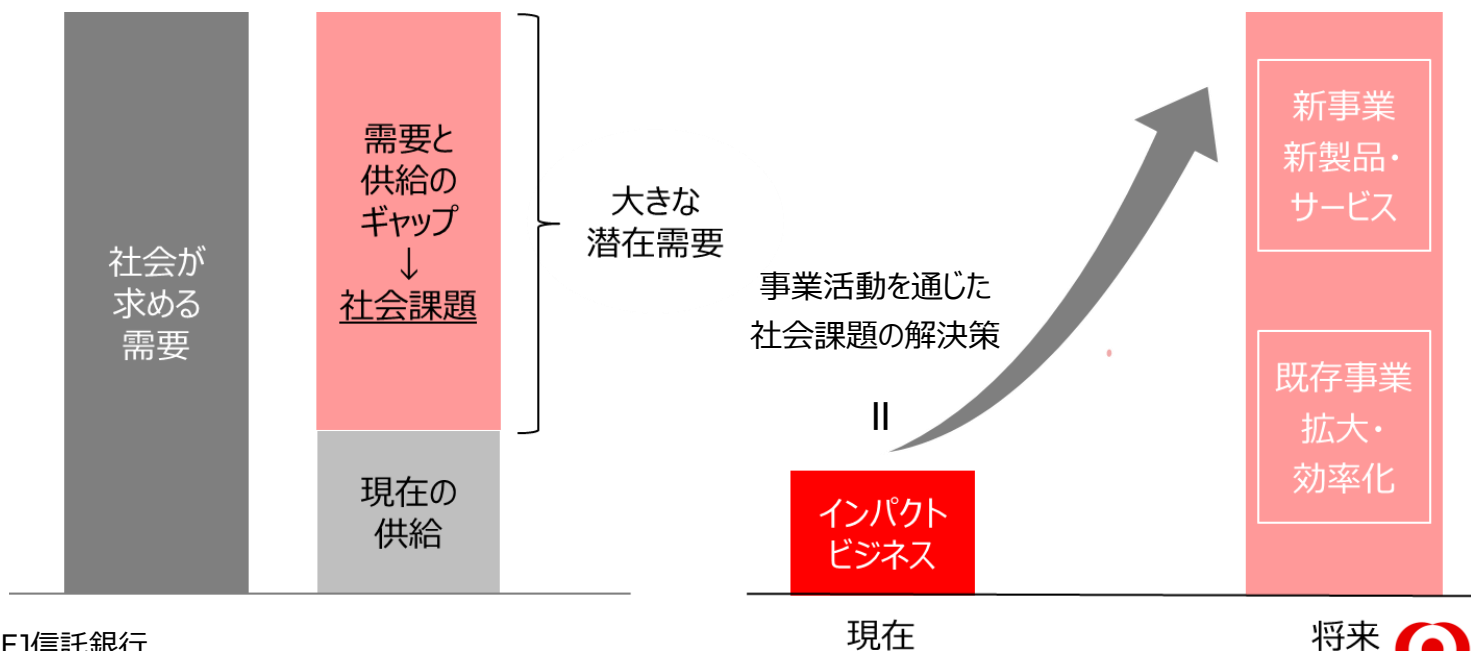
理由②

社会課題の解決策には大きな潜在需要が存在するため、高い成長が期待できる

理由③

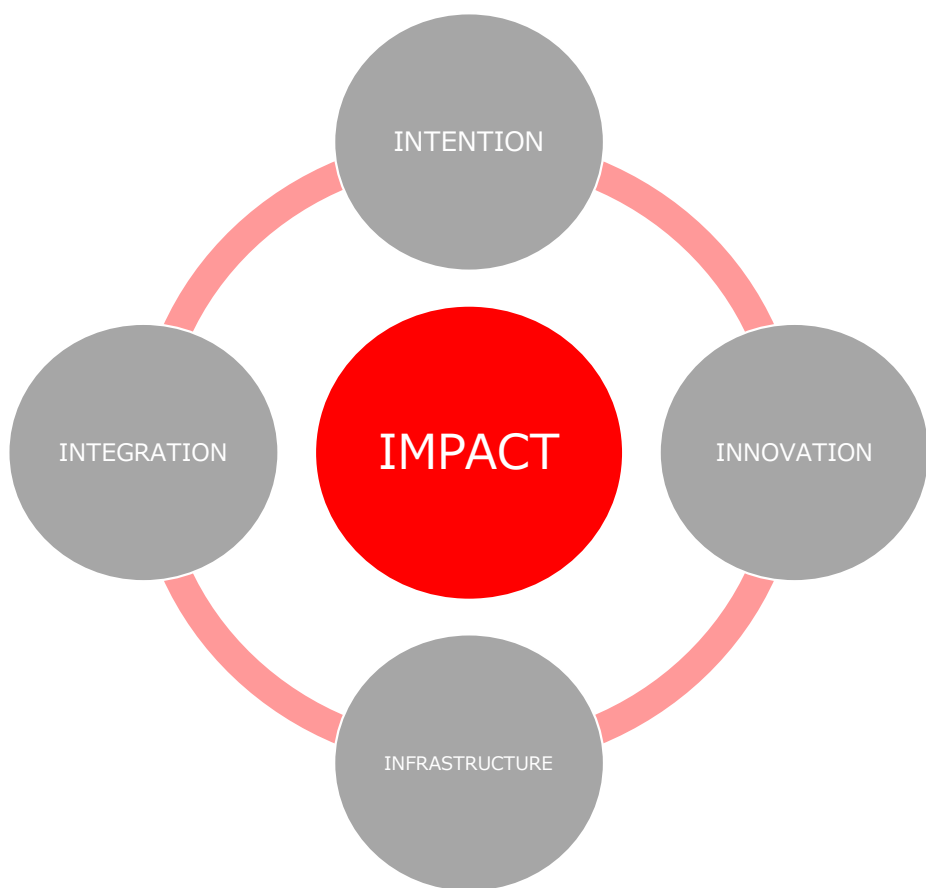
長期的に企業の利益成長と株価リターンの相関は高く、長期的な株式保有を通じて高いパフォーマンスを獲得

社会が求める需要と現在の供給のギャップ（社会課題）の解決策には大きな潜在需要が見込まれ、高い成長が期待できる



企業とのインテンションの共有

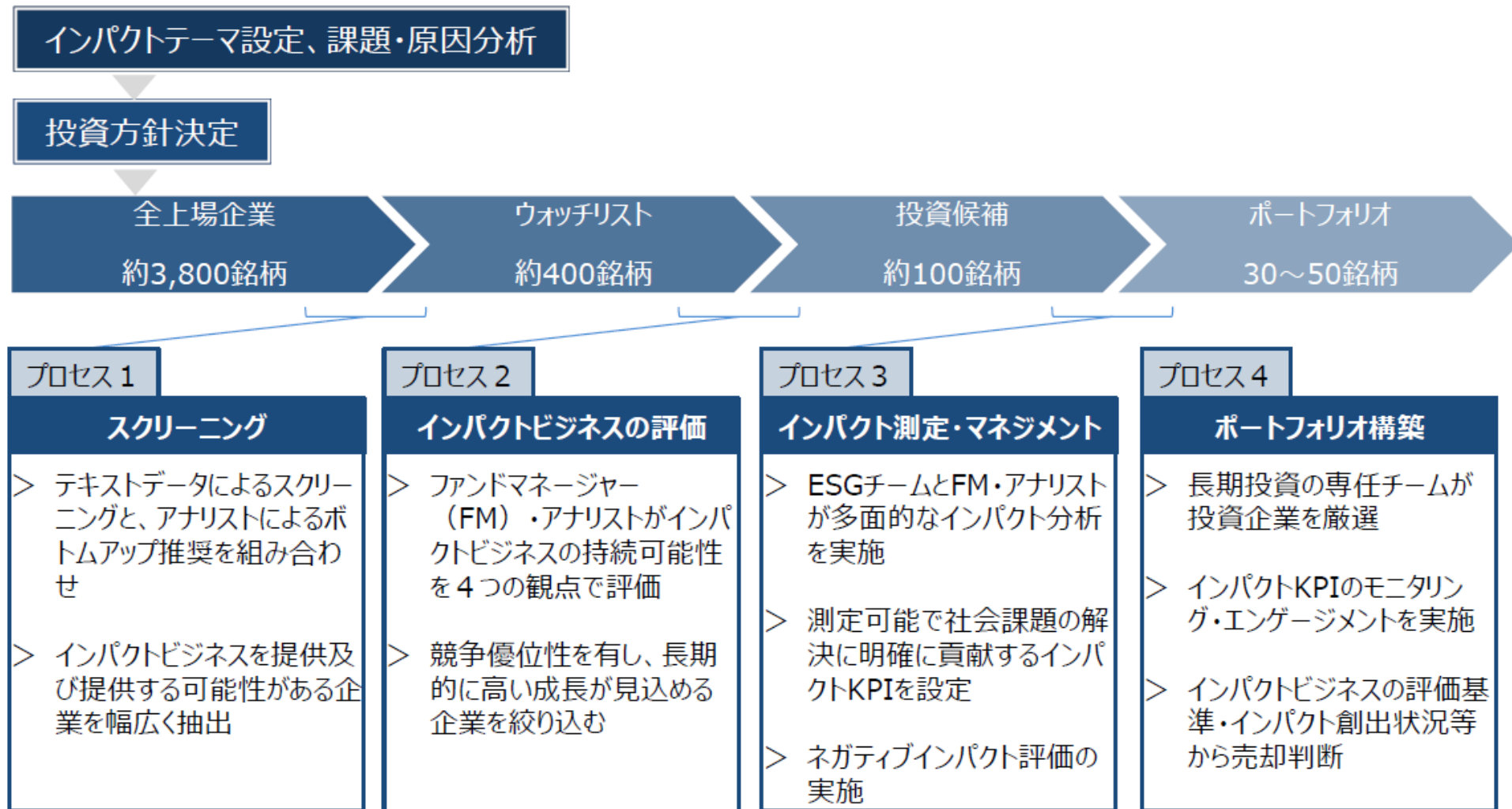
- 事業活動を通じた社会課題解決策（インパクトビジネス）の持続可能性をファンドマネージャーとアナリストが4つの観点（Intention・Integration・Innovation・Infrastructure）から評価
- 特に、未上場株式と上場株式の違い（経営者との関係・株主数など）を埋めるために、企業とのインテンションの共有を重視



	評価項目
INTENTION	<ul style="list-style-type: none"> • 社会課題の認識 • 経営陣の明確な意図 • 情報開示や対話姿勢
INTEGRATION	<ul style="list-style-type: none"> • 経営・事業戦略の中での位置づけ • コアビジネスとしての強化・注力方針 • 本業もしくは本業とのシナジーの有無 • 目標設定の有無
INNOVATION	<ul style="list-style-type: none"> • 政府・NGO等の対応可否 • 潜在的な需要の大きさ • 競争優位性の高さ • エグゼキューションの確信度
INFRASTRUCTURE	<ul style="list-style-type: none"> • 取締役構成や株主構成などガバナンス • 人権、ダイバーシティ&インクルージョン対応 • 人材育成、企業文化醸成

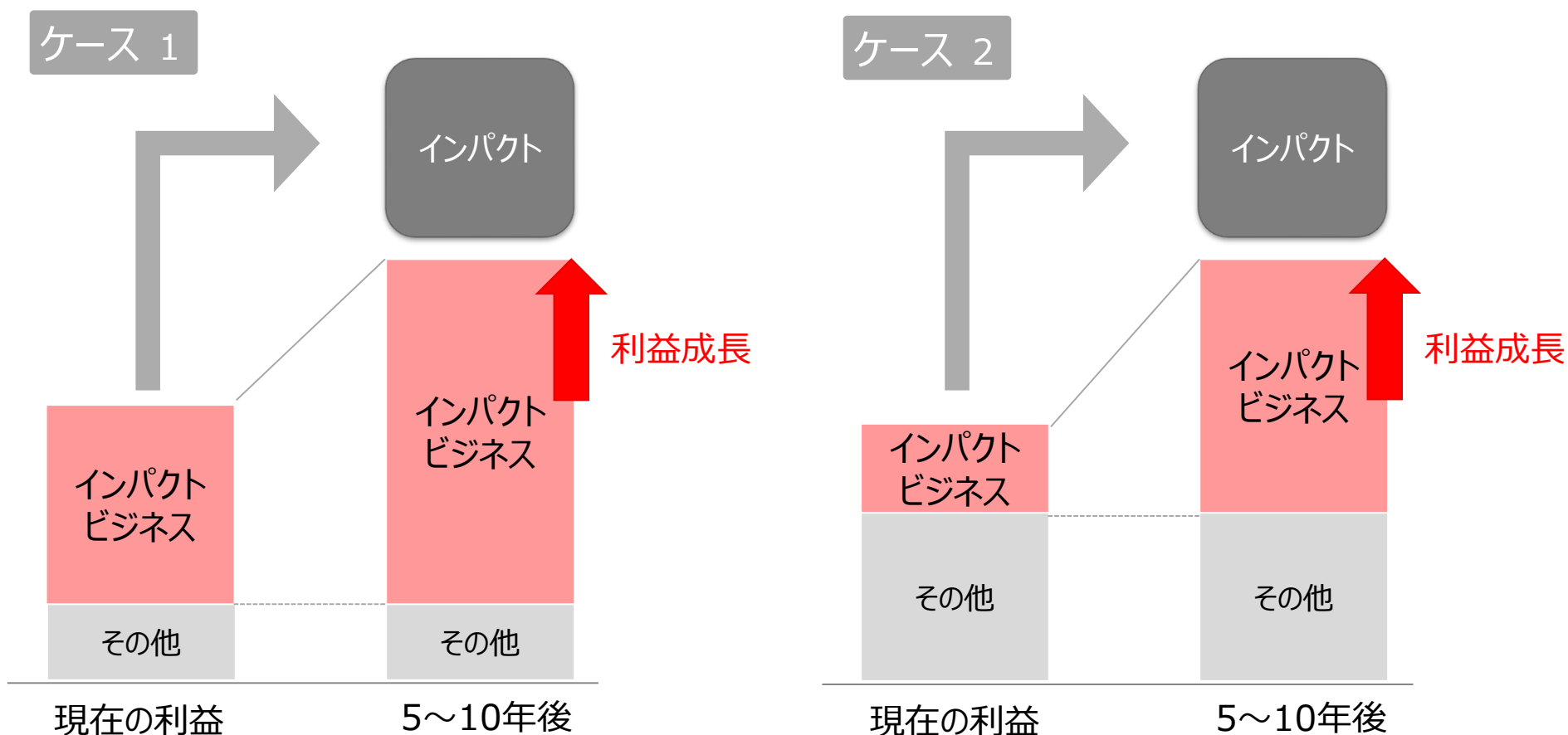
投資対象を全上場企業へ拡充

- インパクトの創出と企業価値拡大を両立できる企業を見出すために、全上場企業（約3,800銘柄）から厳選
- 全上場企業から始まる投資プロセス上に、AI（テキストデータによるスクリーニング手法）を導入して企業を精査



投資企業のイメージ

- ケース 1 : 本業がインパクトビジネス (社会課題の解決策)
インパクトビジネスの成長が全体の利益成長とインパクト創出に寄与
- ケース 2 : 多角化企業の一部がインパクトビジネス
現在のインパクトビジネスの利益構成比は小さいが、全体の利益成長を牽引



国際的な原則・フレームワーク（IMP、IRIS+、SASB、SDGs活用）

- 世界のベストプラクティスや国際的な原則・フレームワークに沿うインパクト測定・管理方法を採用
- 環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業」が「国内上場株式インパクト投資ファンド」をモデル事例に選定

弊社プレスリリース

2022年2月18日

各位

三菱UFJ信託銀行株式会社

環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業」における 弊社インパクト投資型ファンドの選定について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 ^{ながしま いさお}長島 巖、以下 三菱UFJ信託銀行）は、国内の上場株式を組み入れ対象とするインパクト投資型ファンド¹（以下、本ファンド）が2021年度 環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業（<http://www.env.go.jp/press/110511.html>）」として選定され、「インパクト測定・マネジメントに係る指針²」及び「インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック³」に適合すると確認されたことをお知らせいたします。

環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業」は、特に環境面においてモデル性を有すると考えられるサステナビリティ・リンク・ローン/ボンドとインパクト・ファイナンスのモデル事例を創出し、各種ガイドラインに適合する事例の情報発信等を通じて国内に普及させることを目的としています。2021年度は計6件程度のモデル事例創出を予定しており、本件は本年度の第4号の適合性確認となります。

インパクト測定・管理方法

インパクト分析は、ロジック・モデルを用いた分析に加え、Impact Management Project・IRIS+・SASB・SDGsのフレームワークを活用しながら分析します。

【インパクト分析】

【インパクト指標の設定】



【ネガティブインパクトの設定】

【インパクトの方向性の確認】



ALLIANCE

ORGANIZATIONAL
MEMBER



インパクトレポートの発行

➤ インパクト投資ファンドの運用開始（2021年10月）以降、2023年と2024年にインパクトレポートを発行

インパクトレポート 2023（表紙）



インパクトレポート 2023（目次）

・ CONTENTS 目次	
・インパクト投資を通じて目指す社会	04
・ インパクトゴール	
・ Theory of Change	
・ インパクトハイライト	
・三菱UFJ信託銀行のインパクト投資ファンド	15
・ ファンドの特徴	
・運用プロセス	22
・ 投資戦略 / 組成 / エンゲージメント / レポーティング	
・事例紹介	37
・ 自然環境との調和と共生	
・ 健康と安全の確保	
・ あらゆる人々が活躍する社会	
・インパクトデータ一覧	50
・ インパクトKPI一覧	

高度化に向けて

➤ 2024年6月～ ： 「システムチェンジ投資」の研究開始

社会変革推進財団（SIIF）と社会・環境課題の表層的な解決ではなく、多様なステークホルダーとの協働を通じて複雑な課題を生み出している構造（システム）の根本的な解決に向けて、上場企業の意識・行動変容を促すシステムチェンジ投資に関する研究を開始

<弊社ニュースリリース>

https://www.tr.mufg.jp/ippan/release/pdf_mutb/240619_1.pdf

➤ 2024年8月～ ： 「ライフサイクルアセスメント」の共同研究開始

持続可能な社会の実現に向けて、製品・サービスの原材料調達から生産・販売・廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全体を通じた環境負荷を定量的に評価するライフサイクルアセスメント（以下「LCA」）の分析結果を企業とのエンゲージメントで活用し、その成果を分析するために、早稲田大学 伊坪徳宏研究室（理工学術院創造理工学部環境資源工学科）との共同研究を開始

<弊社ニュースリリース>

https://www.tr.mufg.jp/ippan/release/pdf_mutb/240801_3.pdf

終わりに

- 本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、経済環境の変化や相場変動、年金制度や税制等の変更によって予告なしに内容が変更されることがあることを予めご了承下さい。
- 本資料は、弊社がお客様への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載している情報は、信頼できると判断した情報源から入手したのですが、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料の分析結果・シミュレーション等を利用したことにより生じた損害については、当社は一切責任を負いません。
- 弊社は、いかなる場合であっても、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者に対して、あらゆる直接的、または間接的な損害等について、賠償責任を負うものではありません。また、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者の当社に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されていることを前提とします。

本資料に関するお問い合わせ先

MUFG AM サステナブルインベストメント

フェロー 加藤正裕

E-mail : masahiro_kato@tr.mufg.jp